

杉谷議員

定住促進施策は？

町長

施策を複合的に実施

【杉谷】平成27年の本町における人口推計は1万6000人となり、総合計画後期基本計画では500人増の1万6500人を見込んでいます。定住施策は、「住んでみたい町」「住み続けたい町」に向けて、町民が安心安全で生き生きと暮らす



せる「元気なまちづくり」の推進が基本である。人口増には「IUターン対策、分譲宅地対策、空き家・空き地対策、就労対策、子育て環境対策」などで、知恵を絞った大胆で魅力ある定住促進施策の推進が求められる。

策では、定住が具現化すれば集落に奨励金を交付する制度を新設した。また、雇用の創出は本町だけでは限界があるので、西部地区の市町村と連携していきたい。分譲宅地対策は、民間事業者との意見交換もしながら進め、さらに子育て支援策の強化など各種の施策を複合的に実施する。



大山口駅前の分譲地

【杉谷】本町の伏流水は、大山が噴火した9〜2万年前にかけ名和火砕流・弥山火砕流により、大山のすそ野が海岸沖3〜4キロまで広がり、海の近くや沖合いで噴出している。また、季節風による多量の降雪があり、面積が西日本一のブナの森が地下水を涵養し、ミネラルの豊富な「おいしい水」の恵みを本町は大山から受けている。

杉谷議員

水環境の保全は？

町長

将来に向けて重要

町民の宝である自然豊かで、おいしく安心・安全な大山の伏流水の持続的な水環境の保全が必要である。

【町長】持続的な水環境の保全は、将来に向けての重要な案件であり、地下水の水量保全・採取による水位の異常低下・塩水化及び地盤沈下障害を防止すること

が必要である。鳥取県は、今年中に、一定規模以上の地下水採取に関する条例制定をめざしている。

本町では、地下水の供給量や採取量のデータの把握をしていないが、今後、地下水の利用について議会と協議し、地下水の保全を検討していきたい。



豊かな大山の伏流水